

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.35 2018.3

第16回女(ひと)と男(ひと)の一行詩・最優秀作品／子どもができたらやめちゃうの?そんな社会をやめちゃう

特集 十勝の農業と女性活躍



■ 帯広市社会参画支援講座レポート

「女性目線で農業振興を〜アグリファッションからのチャレンジ」

■ 農業分野で活躍する女性にインタビュー!

■ 第16回女(ひと)と男(ひと)の一行詩入賞作品

「カスタネット」とは…2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

「女性目線で農業振興を ～ アグリファッションからのチャレンジ」



▽2018年1月26日(金) 大正農業者トレーニングセンターにて、異業種から農業の世界に飛び込んだ株式会社アグリファッショングループの橋爪恒雄さんと橋爪理恵さんに、創業・起業に至るまでの苦労や喜びなどをお話しいただきました。

アグリファッショングループは、十勝ガールズ農場をはじめとした新規就農者支援や観光農業事業などを展開し、農業をビジネスとして捉えることで、十勝農業の新たな可能性を切り開く会社を目指して活動しています。ファッションは流行という意味ですが、つきつめれば「文化」や「ライフスタイル」を指す言葉です。農業を意味する「アグリ」と合わせ、農業の文化やライフスタイルという意味を込めてアグリファッショングループを設立しました。

女性の社会進出

女性の社会進出といっても、外に出て働くことに限らず、人と関わりを持ち、自分の立ち位置を持つことが大切だと思っています。男女ともに自分自身の人生を持つ必要があって、たとえば、子どもを育てるときでも、誰かの所有物ではなく、家のものでもなく、自分が自分として子どもに関わっていくこそが大切なのではないかなと思います。

マーケティング

なぜ「女性目線」なのか

いま首都圏にある企業のマーケティングの主役はほとんどが女性です。一般的に、食に携わる割合が多い女性が、家庭において消費決定権を持っていますので、必然的に女性目線の商品開発が必要となるわけです。

少人数の世帯が増えている中、大きな力ボチャや大量のイモはなかなか売れなくなってきています。家庭で調理しやすい小さな坊ちゃん力ボチャ

や加工野菜がよく売れています。

消費地に出向き、現地の女性と直接お話しすると、市場が何を求めているのかが分かります。そういった市場活動を行いながら、ニンジンをわざと密集で植えて早く収穫し、バーニャカウダーにも使えるマイクロ野菜として、東京の飲食店に販売するなどしています。

苦あれば楽あり

「地元」にとけ込む

事業立ち上げ当初は、なかなか周囲の理解を得られずに苦労しました。3ヘクタールの土地で農業ができるはずがない、採算が合わないだろうと多くの人に言われました。観光融合型農業を目指していること、女性の新規就農者を増やし、十勝の農業を支えたいという思いを訴えたところ、まず農水省の許可をいただき、農業委員会や見守っていてくれた地域の方々が「いいよ」と言ってくれました。それで農地を買ったことができ、事業を始めることができました。



これまでに地域の人たちに助けられながらも、新規就農の厳しさ、難しさを自覚しています。今後もアグリファッショングループとしての次の事業展開を考えながら、十勝の農業振興に貢献したいと思っています。

十勝ガールズ農場

十勝ガールズ農場は、2016年4月に設立されました。農家の嫁でも後継者でもない20代の女性3人が、新規就農者の経営モデルとして実践を続けています。

約3ヘクタールの土地で、スイートコーンやジャガイモ、カボチャ、アスパラ、ホースラディッシュ(山わさび)、パクチーなどを栽培しています。また、栽培だけではなく、農業体験や景観ガイド、マルシェなどを通して、消費者と生産者をつなぎ、農業の魅力を発信することを目指しています。

そのほか、冬の間は、トマムのリゾット地で、農場で育てた13種類の色つきジャガイモを使ったカラフルポテトフライやポテトサラダ、坊ちゃん力ボチャの器に入れたパンブキンスープなども販売しています。



農業女性に インタビュー

農業に携わる女性として普段感じることや考えていることについて、アグリファッショングループの橋爪理恵さんと、帯広市川西農業協同組合女性部の宗宮泰子さんの2名にお話をうかがいました。

■(株)アグリファッショングループ

橋爪 理恵さん



2014年に、帯広市大正地区の農家ママ友3人で、農業用衣料や雑貨を販売するショップ「アグリファッション」を立ち上げました。カラフルな農業用つなぎや、農業用機械のミニチュアなどを販売しています。

創業して嬉しかったこと

やっぱりお客さんの喜ぶ顔を見るのが一番嬉しいです。小さな子どもが、お年玉を手に、あぜ道を歩いて買いに来る姿や、完成した刺繍をお渡ししたときの

お客様の嬉しそうな顔を見ると、お店をやっている本当によかったと思います。当初は不安や心細さもありましたが、各地に出店させてもらい、いろいろな人と出会うことができて本当に楽しいです。

これからの活動に向けて

普段はお店に立っていますが、収穫の忙しい時期は、農場を手伝ったりもします。これからも、十勝ガールズ農場と連携して、いろんなことをやっていきたいと思っています。

■帯広市川西農業協同組合女性部

宗宮 泰子さん



就農のきっかけ

私はもともと農家の出身ではありませんでした。愛媛県生まれで、昔からカウガールに憧れていたこともあり、農業といえば北海道だと思い、帯広畜産大学に入学しました。同級生だった夫と結婚し、今は、夫と私と長男で、酪農と畑作（大豆・小豆）を営んでいます。

農協女性部の役員を務めて

帯広市川西農協の女性部長を2年間務めました。女性部員は170名おり、役員は2年交代で全員入れ替わります。女性部の事業として、主に研修会などを行っています。

女性部は遊びだろうと言われることもあります。家族や周囲の人に研修会の内容などを話すことにより、今は前よりも女性部のことを理解してもらえるようになったと思っています。

その一方で、女性は、家の事を済ませてからでないと外出しにくい雰囲気があると思います。また、妻が夫と同様に仕事をしていても、夫から見ると、妻に手伝わってもらっているという考えが残っているのかなと思います。

農業に携わる女性として

女性が知識をつけることも大切です。せっかく会議に出席しても、知識や話題がないと、上手く話をするのができずに苦勞します。私も知識をつけるために、農業新聞を購読したり、農協女性部以外の活動にも積極的に参加したりしました。そうやって女性自身が学んでいくことも大切ではないかと思っています。



・家族経営協定とは…

家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、世帯員相互間のルールを文書にして取り決めたもの。

男女共同参画に関する用語集



★帯広市で家族経営協定を締結している農家数は695戸中162戸
(平成28年度)

第16回 女と男の一行詩 入賞作品発表

「女と男の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。「男性の家庭や地域への参画」「女性活躍」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」など男女共同参画をテーマに家庭や地域、学校や職場で感じる思いを募集しました。

「女と男の一行詩」にご応募をいただきありがとうございました。今回は397名から828作品のご応募をいただき、一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品が決定しました。

最優秀賞

子どもができたらやめちゃうの？
そんな社会をやめちゃおう

氏 天姫さん（短大生）

●入賞コメント●

上司に妊娠報告をしたら、お祝いの言葉ではなく、退社届を渡されたという先輩女性がいたと話を聞き、この詩を思いつきました。

優秀賞

私の手 生かせる社会

目指したい

沼口 瑚紅さん（高校生）

帰宅して 疲れて眠る
母のよこ 台所に立つ 父の姿

浄土 駿介さん（高校生）

入 選

共白髪 支え合う心が 夫婦円満

戸島 則子さん（一般）

「ありがとう」 世の中に

信太 優希さん（高校生）

自分から 変えていこうと
思わなきゃ 変わるはずない
これからも

高橋 美咲さん（高校生）



【講評】

女性活躍推進法が施行されておよそ2年が経過した今年度の一行詩は、応募者の世代の広がりを感じさせる選考結果となりました。

最優秀賞に選ばれた作品は、職場における子育てや育休のあり方をテーマにしたものであり、制度はもとよりそれを運用する職場の理解がいかほど大切であるかを考えさせてくれる作品でした。

将来への希望と期待を込めた優秀賞と入選の作品は、ともに若い世代が性差による不利益を受けないような社会をつくる責任が現役世代にあることを痛感させるものでした。特に優秀賞作品の「私の手」という表現は、選考委員の間で高い評価を受けました。

もう1つの優秀賞と入選では、家庭における男女共同参画を描いた作品が各1作品選ばれました。両作品ともに両親をテーマにしている点が共通しており、その情景や家族のつながりがとてもよく伝わってくる作品でした。また、今年も感謝をテーマにした作品が入賞したことは、本市の一行詩らしい嬉しい選考結果となりました。

「女と男の一行詩」選考委員長 岡 庭 義 行

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 F A X：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成30年3月発行

●発行：帯広市

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

伊藤 容子・遠藤 妙子

川尻れえ子・田沼 誠子

沼田 秀実